

# 夢窓幼稚園通信第1号

2015年 4月 6日



人が思いを抱くこと、毎年くり返される季節の息づかいに目を向け、これまで続いてきたいのちの営みを思い出すことは、私たち自身にとってもひとつひとつのいのちにとっても深い意味があるのだと思います。



園庭の桜が満開です。チューリップ・パンジー・桔梗...がはなやかさと共によろこびの気分を届けてくれます。はこべは小鳥にご馳走を届けてくれます。木々の枝先に小さな葉っぱが生まれてきては、その姿を見せてくれます。



表に現れ出たいのちたちに

「おはよう！ はるはいいなあ！」って

あいさつです。

次々に私の目にとび込んでくる自然の表情をきっかけに、私という世界の不思議が開かれていく感じです。

いのちの世界は、大きくひとつにつながっているのでしょうね。

自然の姿に触れ思いを通して目の前の今に結びつくことで私のいのちもあらためて甦り、心や身体の奥深くに立ち昇ってくる力や働きを世界に向けて届けていきたいと思うのでしょね。



私の頭は「今」ここで起きている出来事、存在するものの意味を理解することができます。

私の心は、波打っているいのちの輝きに寄り添い共に呼吸することができます。

私の手は、目の前にあるものに向けて、それらが求めているものを作り出したり、探してきたり、作業をしたりして届けたり祈ることができます。



間もなく子どもたちが園に戻ってきます。

新入の子どもたちが、いよいよ一人立ちの中でやてきます。

ゆったり安心の空気の中で、一人ひとりが春のいのち...自然の営みと私たち自身...に、よろこびいっぱい出会えますように。

そして与えられている頭・心・手がうれしく行為をして世界に関わり、隣で同じように生きている誰かを大切に受けとめて過すことができますように。

4月3日記

園長 升光 泰雄